

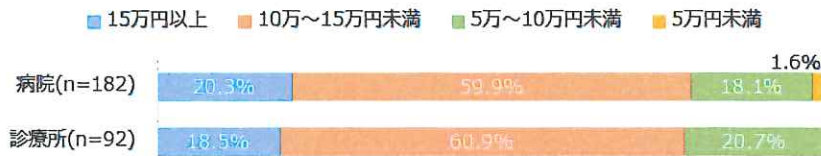
中絶の自己負担額で安全なタイミング逃す、診療所医師の約2割が経験◆Vol.5

医師調査 2022年10月8日(土) 佐藤タ(m3.com編集部)



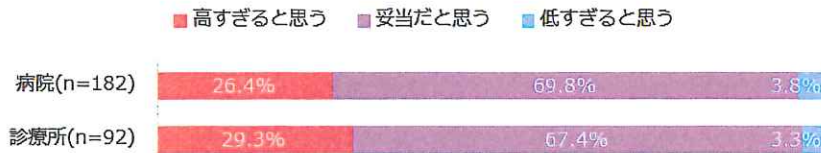
勤務する施設での初期妊娠の人工妊娠中絶手術にかかる患者の自己負担額を聞いたところ、10万～15万円が過半数だった。この費用が原因で、医学的に安全な中絶のタイミングを逸した経験があるかの問いには、病院勤務医の15.4%、診療所の医師の18.5%が「ある」と回答した。自由回答には「お金を集めるのに時間がかかり、中期中絶になった」などの事例が寄せられた。

Q)先生の施設で人工妊娠中絶(妊娠初期)を行う場合、手術費用の自己負担額はおよそどれくらいですか。



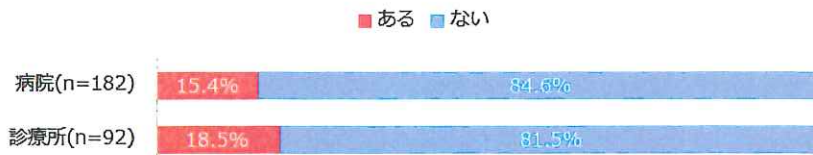
Q)日本では人工妊娠中絶手術(妊娠初期)に平均10万～20万円の自己負担額がかかるとされています。女性が適切なタイミングで安全な中絶にアクセスするために妥当な金額だと思いますか。

中絶手術にかかる患者の自己負担は「妥当だと思う」が7割近く最多だったが、病院勤務医の26.4%、診療所の医師の29.3%が「高すぎると思う」と回答した。「低すぎると思う」の回答は4%に満たなかった。



Q)自己負担額によって医学的に安全な中絶のタイミングを逸した経験がありますか。

人工妊娠中絶手術に関わる産婦人科医の1割以上が、自己負担額によって医学的に安全な中絶のタイミングを逸した経験があった。「(費用を)用意できないことはやはりある」との自由回答もあった。



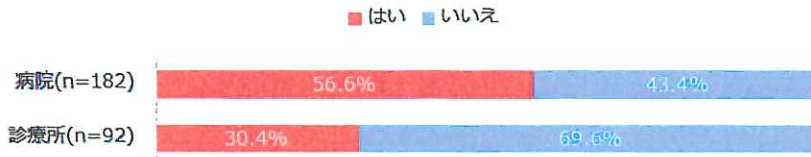
Q)上の質問で「ある」と回答した方は理由をお書きください【任意】。

- 未受診妊婦を受け入れる際、「金銭的理由で中絶できなかったが、産んでも育てられない」という妊婦が散見される。その後の児の貧困や虐待にもつながる問題だと感じている。(病院)
- 先払いでしか受け入れられないため、お金が用意できないと進められないことに病院の方針になっている。用意できないことはやはりある。(病院)
- 中絶費用を工面するのが難しいということでタイミングを逃し、出産をされて、子どもを特別養子縁組みとして託された方がいました。(診療所)

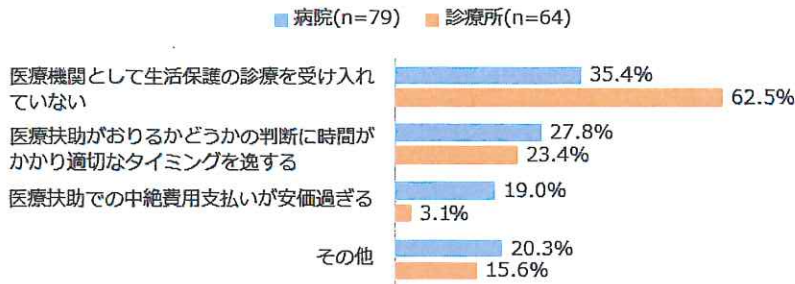
- お金を集めるために時間がかかってしまって、中期中絶になってしまった。(診療所)

Q)先生の勤務する医療機関では、生活保護受給者(医療扶助による支払い)の人工妊娠中絶手術を引き受けていますか(いましたか)。

生活保護受給者の人工妊娠中絶手術の引き受けは、病院と診療所で割合に差があった。



Q)前の質問で②「いいえ」を選んだ先生、その理由を教えてください(複数選択可)。



中絶手術に携わる医師アンケート

過去記事一覧

- Vol.1◆未婚者の中絶、相手の同意「求めないことも」6割
- Vol.2◆中絶方法、吸引法が大半も病院と診療所で違い
- Vol.3◆中絶の同意「誰が書いたか確認せず」病院36%
- Vol.4◆人工妊娠中絶手術の配偶者同意、若手医師ほど「撤廃すべき」
- Vol.5◆中絶の自己負担額で安全なタイミング逃す、診療所医師の約2割が経験
- Vol.6◆緊急避妊薬のOTC化「条件付けずに認めるべき」産婦人科医の約2割
- Vol.7◆「知識の普及と緊急避妊薬のOTC化両立する」



m3.comは、医療従事者のみ利用可能な医療専門サイトです。会員登録は無料です。